

令和2年度 年間指導計画を見直す際の参考資料

「小学校 第6学年 「家庭科（開隆堂）」

39時間（70%）

週	指導事項	題材名	小題材名	時間数	留意点
1	A(2)ア	1 生活時間をマネジメント	①どのように時間を使っているのだろうか	0.5	・生活時間調べは、家庭学習とする。
	A(2)アイ		②時間の使い方に課題はないだろうか	0.5	
2	A(2)イ		③生活時間を工夫しよう	1	
	B(1)ア	2 できることを増やしてクッキング	①「ゆでる」と「いためる」はどちらがうのだろうか	0.5	・いためる調理を扱う。 ・いためる調理の学習は、動画等を活用して指導する。
3	B(2)ア(7) (4)(ウ)イ B(3)ア (7)(4)		②いためておかずをつくろう	4	
4	B(2)イ		③朝食に生かそう	0.5	
	B(6)ア(4)	3 クリーン大作戦	①なぜそうじをするのだろうか	0.5	・掃除は家庭で実践する。 ・家庭での実践の評価・改善は、紙面発表など方法を工夫する。
5	B(6)ア(4) イ		②知っているかな、そうじの仕方	2	
6	B(6)イ C(2)アイ		③身の回りを快適にしよう	0.5	
	B(6)ア(7)	4 すずしく快適に過ごす住まい方	①暑い日はどのように過ごしているだろう	0.5	・5年で学習した「あたたかく快適に過ごす住まい方」の内容を踏まえ、内容を精選して指導する。
7	B(6)ア (7)(4)		②すずしく快適な住まい方を知ろう	1.5	
	B(6)イ		③エコ生活ですずしさアップを工夫しよう	1	
8	B(4)ア(7)	5 すずしく快適に過ごす着方と手入れ	①どのような着方がすずしいだろう	1	・5年で学習した「あたたかく快適に過ごす着方」の内容を踏まえ、内容を精選して指導する。
9	B(4)ア (7)(4)		②暑い季節を快適にしよう	2	
10	B(4)イ		③快適な衣生活を工夫しよう	1	
	B(5)ア (7)(4)	6 生活を豊かにソーイング	①どのようなふくろを、どのようにして使っているのだろうか	0.5	・ゆとりや縫いしろの必要性を理解させる。 ・製作物は、袋を扱う。時間内で製作できるものを選択する。 ・グループでの学習（実習）は行わないようにする。
11 12	B(5)ア (7)(4)イ		②目的に合ったふくろを作ろう	5	
13	B(5)イ		③作ったふくろで生活を豊かに	0.5	
	B(3)ア(ウ)	7 こんだてを工夫して	①どのような料理や食品を組み合わせると食べるとよいだろう	1	・1食分の献立を扱う。 ・調理の学習は、動画等を活用して指導する。
14	B(3)ア(7) (4)(ウ)イ C(1)ア (7)(4)イ C(2)アイ		②1食分のこんだてを立てよう	2	
15 16	B(1)イ B(3)イ C(2)イ		③工夫して毎日の食生活に生かそう	4	
17	A(3)ア(4)	8 共に生きる地域での生活	①地域の人々との関わりを見つめよう	1	

	A(3)ア(イ)イ		②地域でできることは何だろう	1	
18	A(3)イ		③やってみよう・ふり返ろう	1	・地域での活動ができない場合は、家庭での活動を行う。
	C(2)アイ	9 持続可能な社会を生きる	①生活と環境のつながりを考えよう	0.5	・衣食住の学習と関連付けて指導する。
19	C(2)アイ		②物やエネルギーをどう使うか	1	
	C(2)アイ		③環境のことを考えた生活を続けよう	0.5	
20	A(1)ア		2年間の学習を振り返って 中学校の学習に生かそう	1	
21	A(4)ア		レットライ生活の課題と実践	3	

※時間数の精選方法（例）

- 知識・技能を活用して「思考力・判断力・表現力等」を身に付けさせる場面を精選する。
- ・指導計画において、複数の場面で指導事項のイが位置付けられている場合は精選することで時数削減に繋がります。
 - ・問題解決的な学習の過程で行う題材を各学年で絞り、確実に行うようにします。

- 小題材をまとめて指導したり、内容の関連を図ったりする。
- ・例えば、B(4)衣生活「季節や状況に応じた日常着の快適な着方」とB(6)住生活「季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方」は、夏・冬の2回学習が設定されているため、関連付けて指導することで時数の削減に繋がります。

- 実験や実習の内容を見直したり、映像資料や家庭での実践に換えたりする。
- ・例えば手縫いの技能など、身に付けさせる事項や袋物の製作など指定された題材を指導します。また、製作する小物などは限られた時間内にできあがるものを選択します。
 - ・調理実習は学校では行わず、写真や映像資料を活用して調理の知識及び技能を理解させ、家庭で実践するなどします。調理技能の習得について、5年生の場合は次年度の学習で補っていくことも考えられます。

- 「A 家族・家庭生活についての課題と実践」は、2学年間で一つ又は二つの課題を設定して履修させる。
- ・5学年で既に履修している場合には、6学年で履修しないことも可能です。また、今年度の5学年は履修せず、次年度に履修することができます。
 - ・5・6年生共に、今年度履修する場合には、「課題設定」、「計画」、「評価・改善」を学校で行い、「実践」は長期休み等を活用して家庭（可能であれば地域も含む）で行います。さらに時数に限りがある場合、「計画」を家庭で立てさせたり、発表を紙面で行ったりすることも考えられます。

* 令和2年5月1日付文科省「新型コロナウイルス感染症対策の現状を踏まえた学校教育活動活動に関する提言」において、リスクの高い学習活動を行わないと示されており、その例として「家庭科における調理などの実習」が挙げられています。

* 実習等では、できるだけ個人の教材教具を使用し、児童同士の貸し借りはしないようにします。ミシン等の器具や用具を共用で使用する場合は、使用前後の適切な消毒や手洗いをするとともに、用具に番号を付けて使用する児童を限定するなどの配慮を行います。